

災害別の避難の流れ(避難の種類)

災害の種類によって、避難する場所が異なります。



「避難」とは「難」を「避」けることです。安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。

避難先は小中学校・公民館だけではありません。安全な親戚・知人宅やホテル・旅館に避難することも考えてみましょう。

※緊急時に身を寄せる避難先は、町が指定する「指定緊急避難場所」や、安全な親戚・知人宅など様々です。普段からどこに避難するかを決めておきましょう。

避難行動について

「避難」の4つの行動 避難行動は、下の4つが考えられます。

1 行政が指定した避難場所への避難

事前に準備した非常用持出品(P8)を持って避難しましょう。



2 安全な親戚・知人宅への避難

普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。

※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。



3 安全なホテル・旅館への避難

通常の宿泊料が必要です。事前に予約・確認しましょう。

※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。



4 屋内安全確保

ハザードマップで以下の「3つの条件」を確認し自宅にいても大丈夫かを確認することが必要です。

想定最大浸水深
※土砂災害の危険がある区域では立退き避難が原則です。



「3つの条件」が確認できれば、浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です。

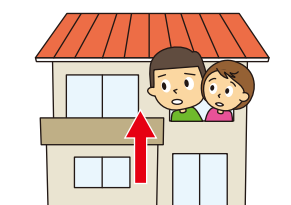
- 1 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
- 2 浸水深より居室は高い
- 3 水がひくまで我慢でき、水・食糧などの備えが十分

浸水時の水平避難と垂直避難

風水害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、避難所への移動(水平避難)だけでなく、自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行い救助を待つという判断も必要です。



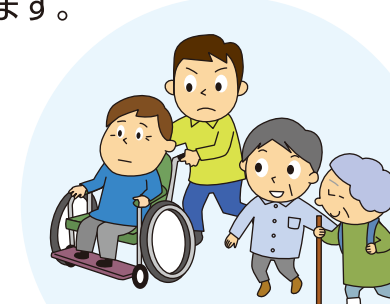
避難所への避難(水平避難)



高所への避難(垂直避難)

避難行動に関する行政発令の種類と、住民のみなさんの対応

避難に関する情報などは、災害の種類ごとに避難行動が必要な地域を示して発令しますが、地域やご家庭などの事情によって、「避難に関する情報」などを待たずに避難が必要と考えられる場合は、「自主避難」をお願いします。



お年寄りや体の不自由な方などの避難に協力しましょう。



避難の際には、ご近所にも声をかけあい、地域で協力し合う避難を心がけましょう。

※「自主避難」とは…避難に関する情報などを待たず、自主的に地区集会所、親戚や友人の家などの安全な場所へ避難することです。その際は、出来るだけ必要な食糧、飲料、日用品などを持参するようにしてください。

※雨が降り続いていたら、テレビ・ラジオ・スマートフォン・パソコンなどで最新の気象情報入手しましょう。特に、河川氾濫の浸水想定区域や土砂災害警戒区域にお住まいの方は、自分で早めに判断し、「危ない」と思ったら、直ちに危険な区域から離れる行動(自主避難)をすることが命を守ることにあります。

水害の避難情報と警戒レベル

- ▶町が出す警戒レベル3又は警戒レベル4(避難情報)で必ず避難しましょう
- ▶気象庁などから出る河川水位や雨の情報を参考に自主的に早めの避難をしましょう

避難情報等 (警戒レベル)				防災気象情報 (警戒レベル相当情報)		
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等	河川氾濫 1級河川などの大河川の氾濫	大雨 低地の浸水や大河川以外の氾濫	土砂災害 急傾斜地のがけ崩れや土石流
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保	5相当	氾濫特別警報	大雨特別警報 土砂災害特別警報
~~~~~<警戒レベル4までに必ず避難!>~~~~~						
4	災害のおそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	4相当	氾濫危険警報	大雨危険警報 土砂災害危険警報
3	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難	3相当	氾濫警報	大雨警報 土砂災害警報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を 確認	大雨・氾濫 注意報	2相当	氾濫注意報	大雨注意報 土砂災害注意報
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを 高める	早期注意情報	1相当	早期注意情報	早期注意情報 早期注意情報

町長は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報等(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。